

2024年度版
環境経営レポート
(2024年1月～2024年12月)



(高塔山から風景)

株式会社 稲富プレス工業所
2025年3月15日作成

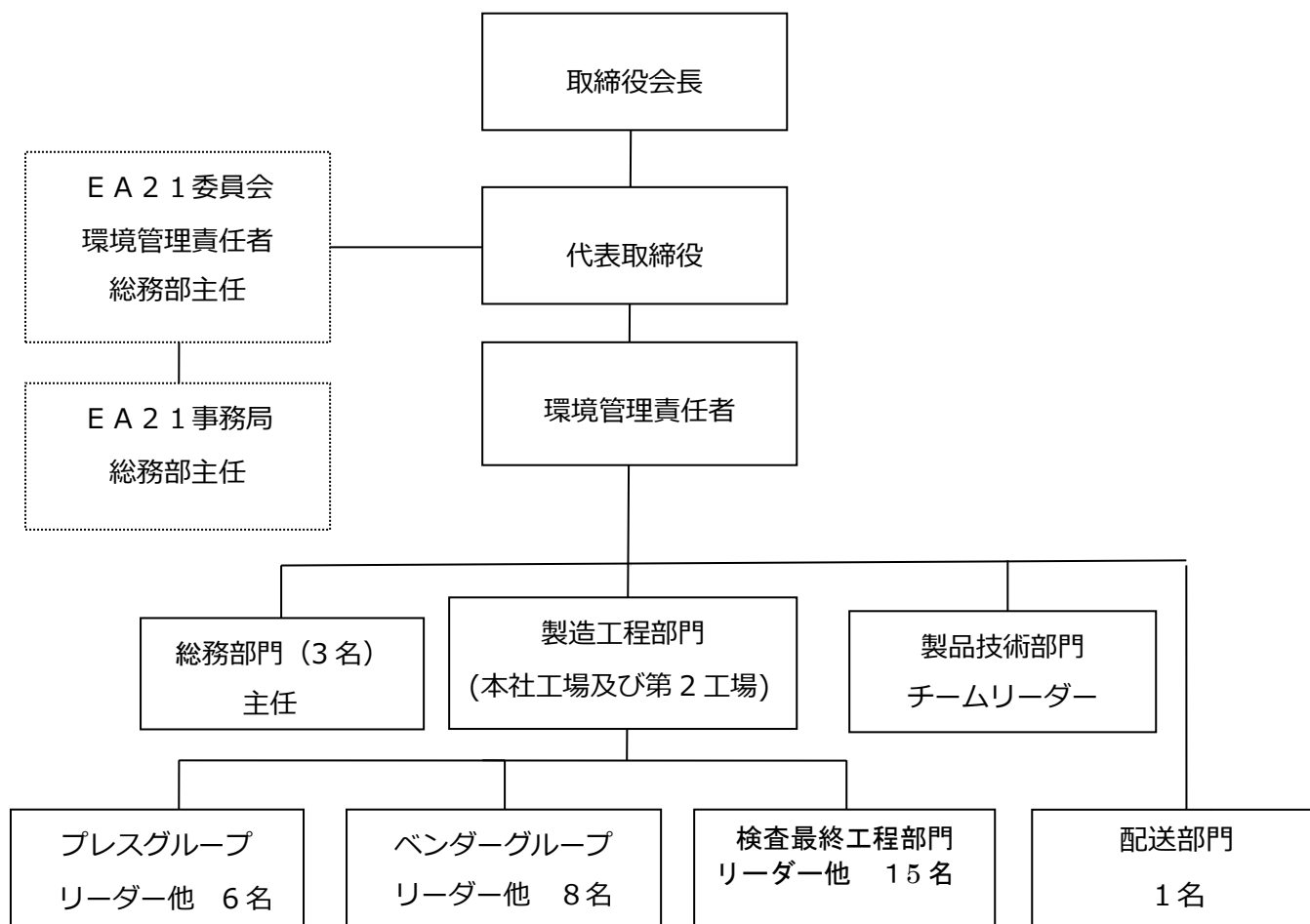
目 次

1.	事業の概要	P - 3
2.	E A 2 1 実施体制	P - 4
3.	環境経営方針	P - 5
4.	環境経営目標	P - 6
5.	主な環境経営計画	p - 7
6.	環境経営目標と実績	P - 8
7.	2017 年度～2023 年度の削減グラフ	P - 9～10
8.	環境経営計画の取り組み結果とその評価 次年度の取組内容	P - 11
9.	環境関連法規等への違反、訴訟等の有無	P - 12
10.	地域社会との環境保全協同活動	P - 12
11.	代表者による全体の評価と見直し・指示	P - 12

1. 事業の概要

1. 事業所名	株式会社 稲富プレス工業所						
代表者氏名	代表取締役 稲富 靖彦						
2. 所在地	〒808-0109 福岡県北九州市若松区南二島2丁目5-13 (本社・本社工場) " 南二島2丁目16-21 (第2工場)						
3. 環境管理責任者	代表者兼任 稲富 靖彦						
担当者氏名	総務部主任 稲富理恵						
連絡先	TEL 093-791-1812 FAX 093-791-0931 Eメールアドレス ipk-ri@titan.ocn.ne.jp						
4. 事業の内容	金属プレス加工業						
5. 事業年度	7月～翌年6月						
6. 事業の規模		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	売上高	百万円	437.42	551.77	581.60	574.46	542.14
	生産量	t	263.884	254.465	282.848	244.356	203.057
	従業員数	人	34	34	33	34	32
	床面積	m ²	1372.84	1372.84	1372.84	1372.84	1372.84
7. 事業の沿革	昭和38年4月 創業者稲富武経が衛生陶器部品製作を目的に稲富プレス工業所を設立 昭和55年12月 社名を「株式会社稲富プレス工業所」に変更し、資本金を500万円で設立 昭和58年1月 工場を若松区の現住所に移転 平成7年5月 資本金を1000万円に増額し現在に至る。						
8. 対象範囲	・対象事業所 本社・本社工場、第2工場						
(登録範囲)	・対象事業活動 全組織・全活動						

2. E A 2 1 実施体制



役割分担表

所 属	役割・責任・権限
代表取締役	全体統括、環境管理責任者として環境経営方針の設定、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し E A 2 1 委員会の開催指示
E A 2 1 委員会	3 ヶ月に 1 回開催し環境経営目標の達成状況及び経営計画の実行状況を審議する。全体の把握／環境管理責任者、環境経営システムを構築し、運用し、その状況を報告審議する
E A 2 1 事務局	電気、水使用量の管理、車燃料（ガソリン、軽油）、灯油・プロパン消費量管理、
製造工程部門	製造工程部門の環境・省エネ・防災、安全管理・廃棄物・排水の現場管理の統括
製品技術部門	製品製造における環境面を考えた効果的製造技術の開発
総務部	電力、水使用量、車燃料（ガソリン、軽油）、灯油消費量の記録業務、EA21 事務局の事務作業
製造工程部門 各リーダー	各リーダーの持ち場及び各部門員の環境・省エネ・防災・廃棄物・排水・安全の現場管理

3. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

株式会社稲富プレス工業所は、金属加工の生産活動を通じて「快適な暮らしと健康」、「地球環境への調和」を掲げ、全従業員が事業活動のあらゆる面で、地球環境に影響を与えていることを配慮して行動します。

環境経営システムを構築・運用し、以下の継続的改善のある活動を展開します。

1. 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定・見直しなどの効果的な取組を行います。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 水使用量の削減
 - (4) 生産性の向上
2. 環境関連法令等を遵守することはもとより、環境管理レベルの向上を図ります。
3. 行政機関・団体などの環境保全施策に協力すると共に、地域社会における環境保全活動に対し積極的に参画し、社会貢献活動を推進します。
4. 環境教育・訓練、社内広報活動の実施により、全ての従業員に環境経営方針を周知徹底すると共に、環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。

2023年3月 1日改訂

株式会社 稲富プレス工業所

稲富 靖彦

4. 環境経営目標

環境経営目標	単 位	2017 年度 基準	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
二酸化炭素排出量の削減	製品出荷量 当たり (Kg- CO ₂ /kg) (総量 Kg- Co2)	0.515 (0%) (106,137)	0.479 以下 (7%) (98707,4)	0.474 以下 (8%) (97646)	0.469 以下 (9%) (96584.7)	0.464 以下 (10%) (95523.3)
電気使用量の削減	kW h / t (kW h)	986.00 (203,129)	917.0 (188,910)	907.1 (186,879)	897.26 (184,847)	887.4 (182,816)
軽油使用量の削減	L / t (L)	33.03 (6805.8)	30.7 (6329.4)	30.4 (6261.3)	30.06 (6193.3)	29.7 (6125.2)
ガソリン使用量の削減	L / t (L)	11.76 (2422.2)	10.90 (2252.6)	10.78 (2228.4)	10.67 (2204.2)	10.55 (2180.0)
廃棄物排出量の削減	事業者ゴミ 袋数 (枚/t) (枚数)	R2 年度基準 2.187 (0%) (452)	2.143 (2%) (443)	2.143 (2%) (443)	2.143 (2%) (443)	2.143 (2%) (443)
水使用量の削減	製品出荷量 当たり (m ³ /t) (m ³)	5.0 (0%) (1,034)	5.0 以下 (1,034)	5.0 以下 (1,034)	5.0 以下 (1,034)	5.0 以下 (1,034)
生産性の向上	労働時間当 たり (売上高/H)	3.567 (0%)	3.603 (1%)	3.603 (1%)	3.603 (1%)	3.603 (1%)

※ グリムスパワーの排出係数(令和 4 年度) 0.488 kg-CO₂/k W h

※ ミツウロコの排出係数(令和 4 年度) 0.389 kg-CO₂/k W h

※ 化学物質は使用していません。

※ カッコ内は削減率を示す。

※ 一般廃棄物排出量は、5 kg/ゴミ袋 1 枚 で管理している。

※ 労働時間（年間）は一定時間として算出した。詳細は文書の環境経営目標に記載。

5. 主な環境経営計画

取組目標			取組み方法	担当
二酸化炭素排出量削減	1-1	電気使用量の削減	エアコンの設定温度を決め実行する	工場の各リーダー
			不要照明灯の消灯	同上
			不要電力消費の抑制	同上
			デマンド監視装置の設定基準に対して管理して行く	同上
	1-2	軽油、ガソリン使用量の削減	トラックのアイドリングストップ リフト運転と搬送方法の見直し	配送部門
			乗用車のアイドリングストップ	同上
2	取組	廃棄物排出量削減 排出量削減のための基準の見直し (令和 2 年度を基準として 2%の削減)	ゴミの分別の徹底を進める	総務部主任
3	水使用量削減取組	水使用量の削減	スポット溶接機の冷却水の循環使用	工場の各リーダー
			節水活動の推進	総務部主任
4	生産性の向上	労働時間当たり生産高 (29 年度を基準として 1%の向上)	日常の効率ある作業の実施 ムダの無い作業計画の作成	工場の各リーダー
			労働時間の短縮を図る	社長 工場の各リーダー

6. 環境経営目標と実績

今年度の目標達成状況

目標	単位 (製品出荷量当り)	2017年度 基準として 2024年度目標	2024年度 実績	目標達成の確認
二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ₂ /kg	0.661 以下	0.445	○
	Kg-CO ₂	136,605.8	90,367.4	
(電気使用量の削減)	kWh / t (kWh)	914.2 (188,910)	869.04 (176,464)	○
(軽油使用量の削減)	L / t (L)	30.63 (6329.4)	28.62 (5810.7)	○
(ガソリン使用量の削減)	L / t (L)	10.90 (2252.6)	7.80 (1583.82)	○
総廃棄物排出量の削減 (事業者ごみの削減)	事業者ゴミ袋数 (枚/t) (枚数)	R2 年度基準 2.143 (443)	2.172 (441)	× (○)
水使用量の削減	m ³ / t m ³	5.00 以下 (1,034)	4.52 (918)	○
生産性の向上	労働時間当たり (売上高/H)	3.603	3.755	○

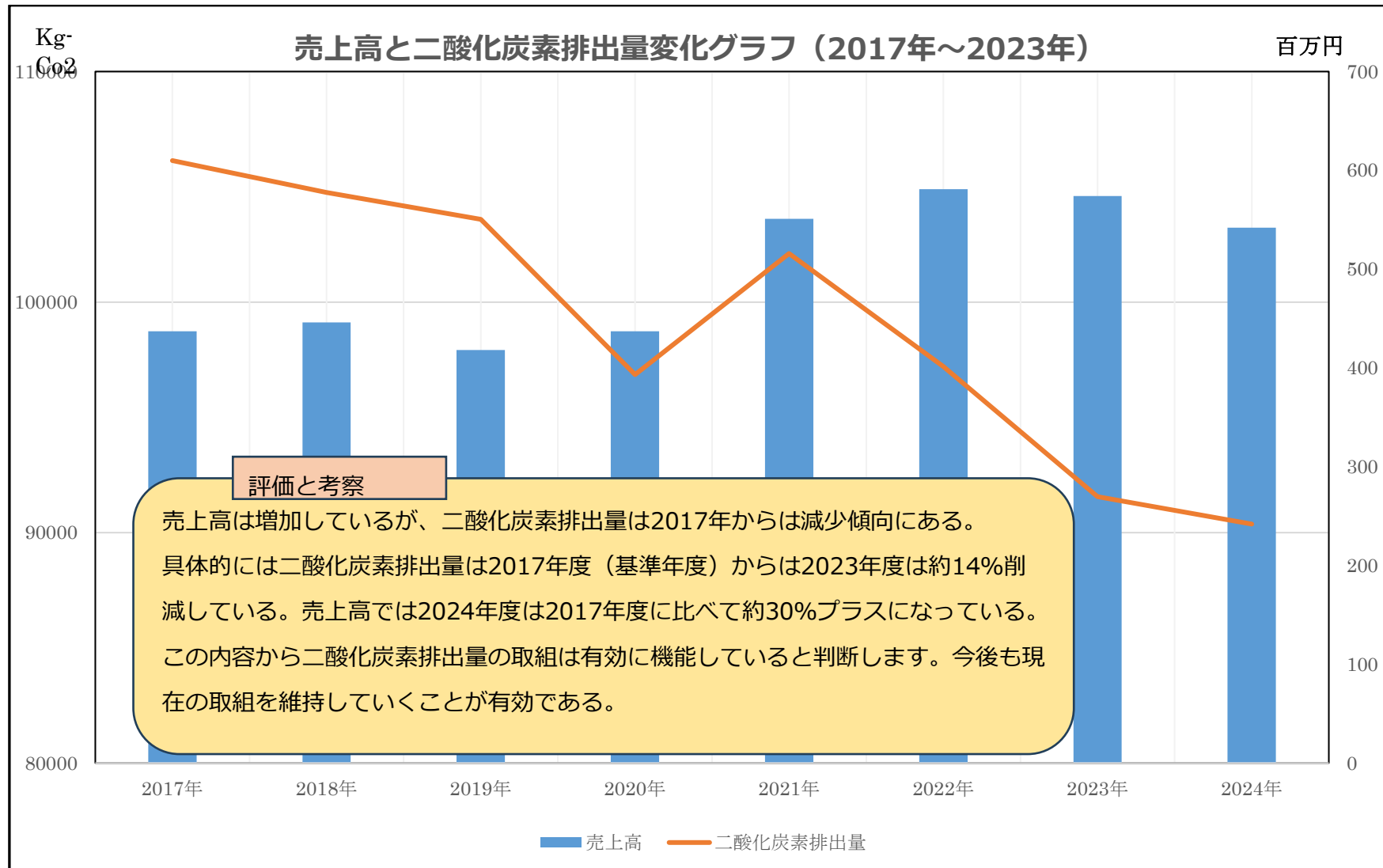
※グリムスパワーの排出係数(令和4年度) 0.488 kg-CO₂/kWh

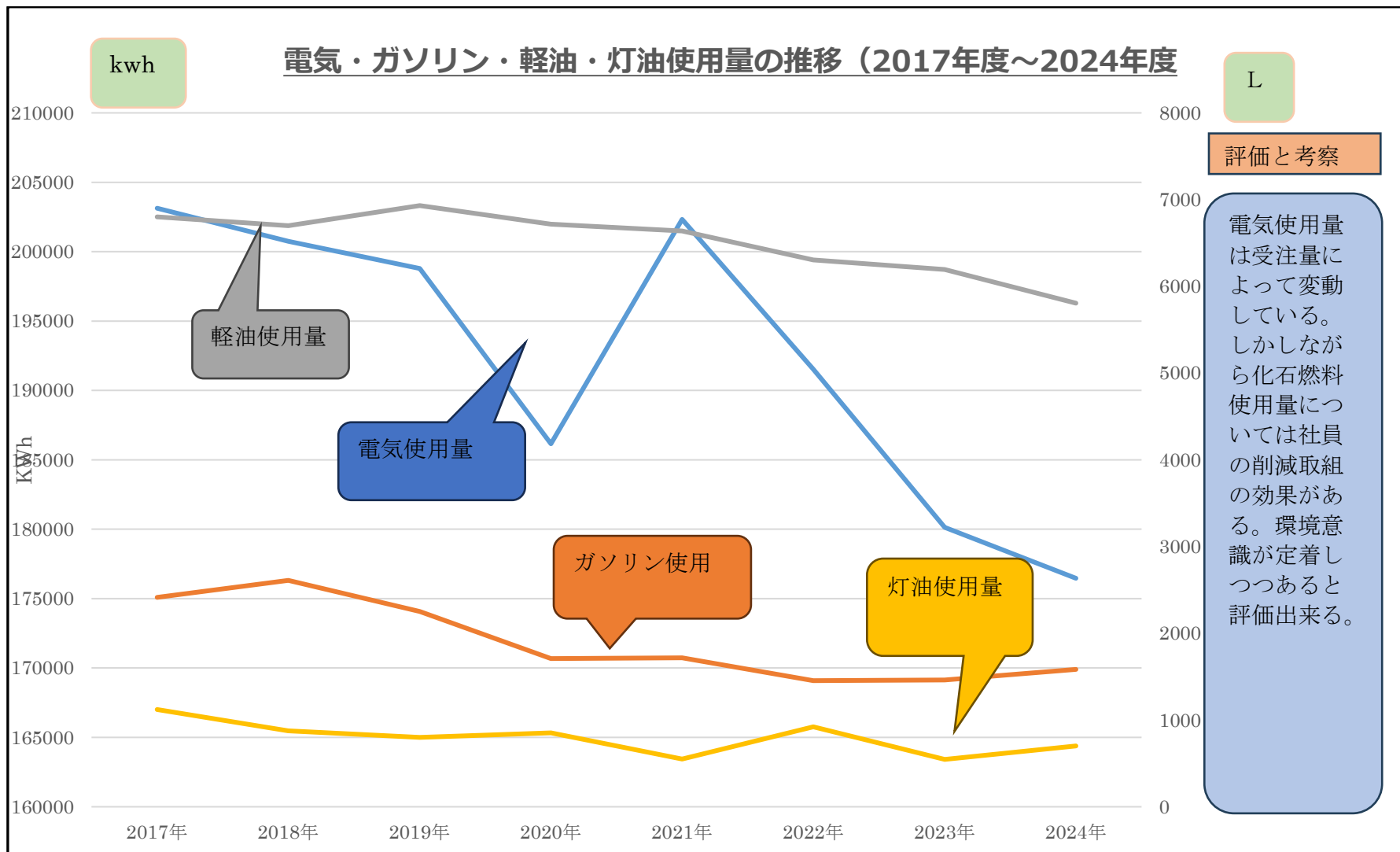
※ミツウロコの排出係数(令和4年度) 0.389 kg-CO₂/kWh

※平成30年度(2018年度)より、平成29年度(2017年度)の実績を基準とする。

※総廃棄物排出量の(×)は生産量あたりの総量実績である。

7. 2017年度～2024年度削減グラフ





8. 環境活動計画の取り組み結果とその評価及び次年度の取組内容

	環境経営目標	結果	今年度の評価と次年度の取組内容
1	二酸化炭素排出量削減	151%	・ 製品出荷量当たりの各エネルギー項目において、削減できていて達成した。 ・ 電力供給先の変更により排出係数が変更になったが、データを的確に管理し集計できている。
2	電気使用の削減	107%	・ 節電意識が定着したため目標を達成した。 ・ デマンド監視装置による電力使用量の低減を図る ・ エアコンの設定温度を決め、実行する ・ 不要照明灯の点滅(担当：各リーダー) ・ 不要電力消費の抑制(担当：各リーダー) ・ 遠赤外線ヒーター使用時の温度の適正化 ・ 太陽光発電を通じて、二酸化炭素排出量の相対的削減に取り組む。
3	軽油使用量の削減	108%	・ 効率の良い配送ルート等に取り組む目標を達成した。 ・ 各車両のアイドリングストップ活動(担当：各リーダー)
4	ガソリン使用量の削減	130%	・ 車内の冷房運転温度の見直しを実施し目標を達成した。 ・ 各車両のアイドリングストップ活動(担当：各リーダー)
5	総廃棄物排出量の削減	101%	・ リサイクル活動の実施をしたため目標を達成した。 ・ 木系梱包材の納入業者への引取りの継続(担当：各リーダー) ・ 紙系廃棄物は引き続き無償での引き取りとなる。 ・ 減量化、リサイクル等の強化を図る。
6	水使用量の削減	113%	・ 洗浄作業の効率アップを実施したため目標を達成した。 ・ スポット溶接機冷却水の循環使用の継続(担当：各リーダー) ・ 節水トイレの使用(担当：各リーダー)
7	生産性の向上	104%	・ ムダのない生産計画の実施をしたため目標を達成した。 ・ 単位時間当たりの生産量を上げることにより、使用するエネルギーの削減を図る。・そのための方法を検討する。(担当：各リーダー) ・ 引き続き能率の向上について活動する。

9. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、騒音規制法、北九州公害防止条例(騒音)、特定工場における公害防止組織に関する法律、消防法、に関する法律等の違反はありませんでした。また、利害関係者からの訴訟や苦情、公的機関からの指導、指摘ありませんでした。

10. 地域社会との環境保全協同活動

当会社所在地地域の清掃を推進する共同体清掃業務の趣旨に賛同し、ゴミ拾いや雑草除去など清掃活動を行っている。

11. 代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 全体の評価

- ・ E A 2 1 の活動をスタートして 1 8 年が経過しました。

今期は受注面においては厳しい面もあり、評価期間においては四半期ごとの達成状況において未達の部分もありましたが、通期においては二酸化炭素の削減という点に関しては達成できているので、現在の活動を着実に行うことが大切です。また、今期は「北九州市環境にやさしい事業所」として、これまでの活動を評価された。

達成した理由としては社員が環境経営目標である電力削減の取組やガソリンや軽油など化石燃料使用量の削減に向けた活動が定着して来た成果と考えます。

2. 見直し・指示

次年度においては、今期と同様の取組内容を実施してください。

使用電力の削減においては、遠赤外線ヒーター使用時の温度管理や未使用機器の電源オフなど細やかな活動が大切です。社内での廃棄物減量化はなかなか進みませんが、分別活動をすすめリサイクル運動の実施や不良品を作らない作業を実施してください。また多能工への始めていることからそれを生産性の向上に結び付けられるように取り組んでください。